

APO Letter

2024

Vol. 86

January

〈巻頭インタビュー〉

■ 離島医療と薬剤師の役割

長崎県病院企業団 長崎県対馬病院 院長

八坂貴宏 先生



C O N T E N T S

● Expert Interview 1

離島医療と薬剤師の役割

離島医療を担うそうごう薬局 7

ファーマシーフォーラム2023 9

2023年 学会発表演題紹介 13

総合メディカルの人財育成 14

離島医療と薬剤師の役割

周囲を海に囲まれた日本では多くの離島が存在していますが、離島においては住民の高齢化に伴い医療ニーズは増大する一方、医師や看護師など医療の担い手の人材不足、診療科の偏在、悪天候による交通遮断など、多くの課題があります。総合メディカルでは離島においても多くの薬局を展開し、地域の行政や医療機関と連携しながら、離島における医療の継続に貢献しています。今回は30年以上にわたり長崎県の上五島、対馬で診療を続けてこられた長崎県対馬病院の八坂貴宏院長に、離島医療の課題と今後の展望、薬局に求めることなどについて、お話をお伺いしました。

Expert
Interview

八坂 貴宏
先生

長崎県病院企業団 長崎県対馬病院 院長

プロフィール

1988年長崎大学医学部卒業。1990年長崎県離島医療圏組合（現 長崎県病院企業団）上五島病院外科、1993年より長崎中央病院（現 国立病院機構長崎医療センター）での勤務、国立がんセンター中央病院での研修などを経て、1995年長崎県離島医療圏組合生月病院外科、1997年長崎県離島医療圏組合上五島病院外科にて勤務。2007年より、上五島病院院長。有川医療センター、奈良尾医療センター所長を併任し、2019年長崎県病院企業団長崎県対馬病院院長に就任。長崎県上五島病院顧問、長崎県離島医療医師の会顧問、地域医療振興協会長崎県支部長。2023年には医療に恵まれない地域の医療の確保と向上に尽力する医師を顕彰する「地域医療貢献奨励賞」を受賞。



【インタビュー】

石原 孝
Takashi Ishihara

総合メディカル株式会社
薬局運営本部
北部九州薬局運営部
運営部長



【インタビュー】

木原 零
Rei Kihara

総合メディカル株式会社
宮崎対馬ブロック
ブロック長



離島医療の現状と課題

石原 先生は長崎大学をご卒業後30年以上にわたり、上五島と対馬を中心に離島での医療に貢献されてきました。まず離島医療に対する先生の想いについて、お聞かせください。

八坂 私はもともと対馬の出身で、小学校、中学校まで対馬で過ごした後、長崎の高校に入学しました。高校生の時に医師になることを目指したのですが、自分自身が島に住んでいた時のことを考えると、当時は非常に医師が少なく医療体制も十分ではありませんでした。私が風邪をこじらせたとき、当時はまだ交通機関も整っていませんでしたので、船で受診するのですが、病院まで船で2時間半くらいかかっていました。そういった環境での受診に非常に辛い思いをしたこともあり、また医療体制が恵まれていないという事実もありましたので、医師になるのであれば将来地元でもある対馬で働けるのが自分としては一番良いだろうという想いがありました。

石原 大学ご卒業後は外科をご専門にされていらっしゃいますが、これにも何か理由があったのでしょうか。

八坂 とにかく命を助けることが最優先ですから、まず島での医療に必要なのは救急だと思っていました。救急をやるには外科系が外傷にも内科疾患にもある程度幅広く対応できるのではないかと考えて、外科医を選びました。

石原 先生が離島医療を始められた頃と現在で、医療資源や環境など、大きく変わってきたところはございますか。

八坂 一つには市町村合併の影響もあり、地域が一つのまとまりになっています。地域に大きな基幹病院を作って周辺の診療所や地域の病院と繋がりがながら医療を継続する体制をここ4、50年で作り上げてきました。経営面においても、県と市町村が資金を出し合って今の長崎県病院企業団（以前の長崎県離島医療圏組合）を作り、運営しています。経営的にも良好で、医療体制と経営体制ができてきたことがまず一つあります。

次に人材ですが、医師については卒業後に指定された地域や診療科で一定の期間、医療に従事することで返還が免除される奨学金の地域枠制度ができたことで、人材確保はしやすくなりました。五島・対馬・壱岐を含め医師確保はかなりできています。ただ看護師、介護士はまだまだ足りません。これは病院だけではなく、老人ホームや介護施設においても同様で、そこが最大の課題です。

また治療については、脳外科疾患や心臓外科疾患に対する手術ができる環境が整っておらず、基本的に本土搬送になりますが、天候不良やヘリが飛ばないときには助けられない命があり、その厳しさはまだまだ残っています。

石原 他に薬剤に関することで、先生が対馬の医療において課題と考えていらっしゃるのとはどのようなことでしょうか。

八坂 離島に限ったことではありませんが、やはり高齢の患者さんが多いので、ポリファーマシーは大きな問題だと思っています。病院では副作用の確認や服薬コンプライアンス、残薬までを確認するのは難しいので、そういったところで調剤薬局と連携できるのは大きなメリットです。

対馬における地域連携と薬局に望むこと

石原 総合メディカルでは対馬に5薬局を展開しており、対馬病院とも処方箋の応需に留まらない連携ができていていると思うのですが、地域連携における現状と課題について、お聞かせ願えますか。

八坂 私が赴任してから4年の間に地域医療連携室を充実させてきており、今では情報交換は上手く機能していると思います。薬局、薬剤師の方々との連携におい

ても、お互いに情報のやり取りをし、疑義の情報交換をし、副作用の連絡や服薬コンプライアンスに関わる連絡もいただいています。顔の見える関係もできていると思いますし、今後もこの繋がりを保ちながら地域医療を継続していければ良いと思います。また情報連携については、長崎県のあじさいネット*に情報提供病院として参加しており、同意書を取得した患者さんについては、診療情報を地域の診療所、クリニック、薬局とも共有しています。

木原 対馬病院では地域連携会議にも参加させていただいており、またあじさいネットについては対馬中央店も情報閲覧施設として参加していますので、予め患者さんの診療情報などを確認することができ、とても役に立っていますが、まだまだ同意いただいている患者さんは少ないのが現状ですので、今後は薬局からも積極的に声をかけていきたいと思っています。

あと先生が薬局や薬剤師に期待されることはどのようなことでしょうか。

八坂 私の更なる要望として、薬剤師さんには調剤や服薬指導という薬局内部の業務にとどまらず、病院との繋がりがどうなっているか、医師がどう仕事をして患者さんにどう説明しているか、薬をどう考えているか、あるいは自宅にいるお年寄りや家族がどう薬を飲んでいるか、また飲ませているか、飲めていないのであれば何に問題があるのか、あるいは在宅で薬が大量に余っているのではないかと、先ほどのポリファーマシーの問題

も含め、そういったところをもっと現場主義で見て、考えていただきたいと思っています。

当院への赴任にあたり、私自身は総合外科医をやめて今は総合診療を標榜していますが、総合診療関連の学会では、日本プライマリ・ケア連合学会がプライマリ・ケア認定薬剤師制度を創設しています。そういった資格にもぜひ積極的にチャレンジしていただければ、よりレベルの高いケアや指導が可能になります。

木原 在宅については、対馬中央店でも何軒か対応しています。実際に患者さんの自宅に行くと残薬の問題を含めて患者さんの生活背景は非常によく見えるので、私たちももっと力を入れていきたいと思ひますし、また外来の患者さんについても、きちんとフォローできるように勉強して知識を身につけていかなければいけないと思っています。

八坂 実際に何度か薬剤師さんと一緒に訪問して投薬の仕方をみてもらったことがあります。例えばインスリンの使い方なども教えたりチェックしてもらったりすると、服薬レベルも上がり薬剤師さんのレベルも上がり、患者さんの満足度も高まるので、一緒に動いて非常に良かったと思っています。皆さん能力も非常に高いので、それをしっかり使わないことにはもったいないと思います。どんどん外に出て行って、患者さんの生活の質のレベルまでみていくと、ものすごく良いケアに繋がります。

そうごう薬局では血糖値測定を行っている薬局もあるとお聞きしましたが、健診を受ける方も少ない中で、糖尿病の早期発見にもつながりますので、非常に有意義な



活動だと思います。こういった活動は薬局の中にとどまらず、地域での保健予防活動にも可能な限り参画していただきたいと思っています。今の活動から一歩踏み出すには体力と知力と強い精神力が必要ですが、そこには夢があります。今やっていないことに対して何が良いかを考えてワンステップ踏み出すことで物事は変わっていきます。日常業務以外にやりたいことがあったり、新聞などの情報で「これいいなあ」と思えばトライしてみたり。そういうワンステップをぜひやってほしい。そうすると一気に何かが変わります。

※あじさいネット:正式名称は「長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会」。診療情報を患者同意のもと複数の医療機関で共有することで安全で高品質な医療を提供し、地域医療の質の向上を目指す。

オンライン診療について

石原 対馬病院では遠隔医療にも取り組まれているのでしょうか。

八坂 脳神経外科疾患や心臓血管外科疾患の症例は島から長崎・福岡に搬送していますが、その際にもCTやMRI画像があると手術適応などの共通認識を持ちやすいので、1980年代から長崎本土の基幹病院とは画像をやり取りしていました。患者さんの診療については、新型コロナの影響でオンライン診療が普通になってきた中で始めています。幸い長崎には、あじさいネットがあったので、当院もこの4月から本格的にオンライン診療を始めています。今のところ内科と婦人科で、全体の患者数は30人ぐらいです。生活習慣病、コロナの患者さん、女性の更年期障害や月経困難症など、一度診察した後の2回目、3回目はオンラインで。3ヵ月に1回あるいは3回に1回受診してもらうという流れです。

木原 薬局ではオンライン服薬指導の実績が少ないので、そこも今後の課題だと考えています。

八坂 今はオンライン診療後に患者さんは薬を取りに薬局に行くので、そこで指導されていると思いますが、電子処方箋になり、薬も郵送となれば、オンラインでの服薬指導になります。次のステップとして、オンライン服薬指導は是非推進してもらいたいですね。

今後は診療所でもオンライン診療を始めようと思います。対馬には出張診療所が全部で12、3ヵ所ありますが、すべての診療所で必要な薬を常に在庫しておくことは経済的にも無駄が多いので、そこは集約した方が良く

思っていますが、高齢者は病院まで来るのに30分、1時間かかるので、薬は配達してオンラインで服薬指導を行うという流れを作りたいと考えています。

今後の展望

石原 最後に対馬での医療をより充実させ、患者さんの健康に貢献するために、先生の今後の展望について、お聞かせください。

八坂 基本的に島でできることは島で完結したいと考えています。患者さんも住民も島の中で健康に過ごして、病気になれば島の中で治療し、島の中で生活を続けることができる環境を作ることが理想です。医師の仕事の基本は命を助けることでもあります。それ以上に患者さんの生活と人生を支えることだと思っています。救急で来た患者さんを治療後に、その方がリハビリをして在宅になって寝たきりになっても、栄養管理や薬の管理やケアの仕方を家族に教えたり、それでも不幸にもよい生活ができないようであれば施設にどう繋げていくかという流れを作る。そういったことを含めての完結ですね。それを常に考えています。

また今後は未病や健康増進への取り組みも重要になってくると思います。対馬病院では毎年患者さんやご家族、住民の方を招いて行政と共同で「ふれあいフェスタ」を開催しています。新型コロナで3年ほど中止していましたが、今年からやっと再開することができ、600名ほどの方に参加していただきました。病院のことを知ってもらい、健康増進に興味を持っていただくことを目的に、病院の各部署の紹介や保健所の活動報告を行い、手術室体験や車いす体験、バランスのいい食事や運動の仕方などを教えたりしています。

木原 「ふれあいフェスタ」については薬局も参加させていただきました。あと健康増進への取り組みとしては、対馬市と一緒にウォーキングの活動を実施したり、豊玉地区での食育フェスタに参加するなど、健康イベントとして病院や行政と一緒に活動しています。

八坂 そういった活動を通じて住民と生活レベルでの関係を構築することが、とても重要です。上五島に赴任して5年目ぐらいに、外科医としてがんの手術をした60歳の患者さんがいます。外科医としてのフォローは通常5年程度ですが、その方は私に診てほしいと希望されて、血



ふれあいフェスタ2023
(そうごう薬局出展ブース)

圧や糖尿病とその合併症も含めてずっとフォローしてきました。80歳をすぎると、脳卒中の合併もあり、寝たきりで食事も摂れない状態になりましたが、その後も在宅で診ることになり、最後の看取りまでできました。

私は先程も申し上げたように人生を支えるのが仕事だと思っているので、治療もし、健康管理もし、看取りまでと、本当に自分の思う仕事ができたとしますし、患者さんにもご家族にもとても感謝されました。一般的に医師は2～5年で転勤することが多く、結果的に患者さんを次の医師にお任せするのが普通ですが、島に長くいてそういった経験ができたことはとても大きいと感じます。

木原 そうごう薬局でも薬剤師は転勤の機会も多いのですが、RCSと呼ばれる薬局事務については現地の方を採用し、長く勤務してもらっています。今後薬局として住民の方と生活レベルで関わっていくためには、RCSの存在が大きくなってくると考えています。

八坂 都会では患者さんや住民も入れ替わりますし、環境もすぐ変わっていきますが、対馬では人口が約27,000人とほぼ対象が固定されているので、新しいことをトライするにしてもとてもやりやすい環境で、結果もすぐに出ます。高齢化や過疎化は日本全国で起こってい



す。対馬では高齢化のピークは過ぎていますが、東京のような都会ではこれから若者が減って高齢者が増え始めます。社会背景はこちらの方が20年早く進んでいるという実感があり、ある意味では医療、地域社会変革の最前線と言えらると思います。皆さんがここでやっている仕事は20年後の日本全国のモデルになる可能性を秘めています。そういうフィールドがあると思っていただけると一歩踏み出しくなりませんか。

石原 薬局としてもこれから病院や行政と連携しながら、課題をひとつずつ解決して、地域社会に溶け込んだ活動を続けていきたいと思っています。本日は長時間ありがとうございました。

(本インタビューは2023年12月に実施されました)



離島医療を担うそうごう薬局

そうごう薬局は長崎県に24薬局、対馬、壱岐島、五島列島（中通島）、平戸島、大島においては12薬局を展開し、地域の行政や医療機関と連携しながら、離島における医療の継続に貢献しています。

そうごう薬局 対馬中央店



そうごう薬局 対馬広域センター店



そうごう薬局 いづはら田淵店



そうごう薬局 豊玉店



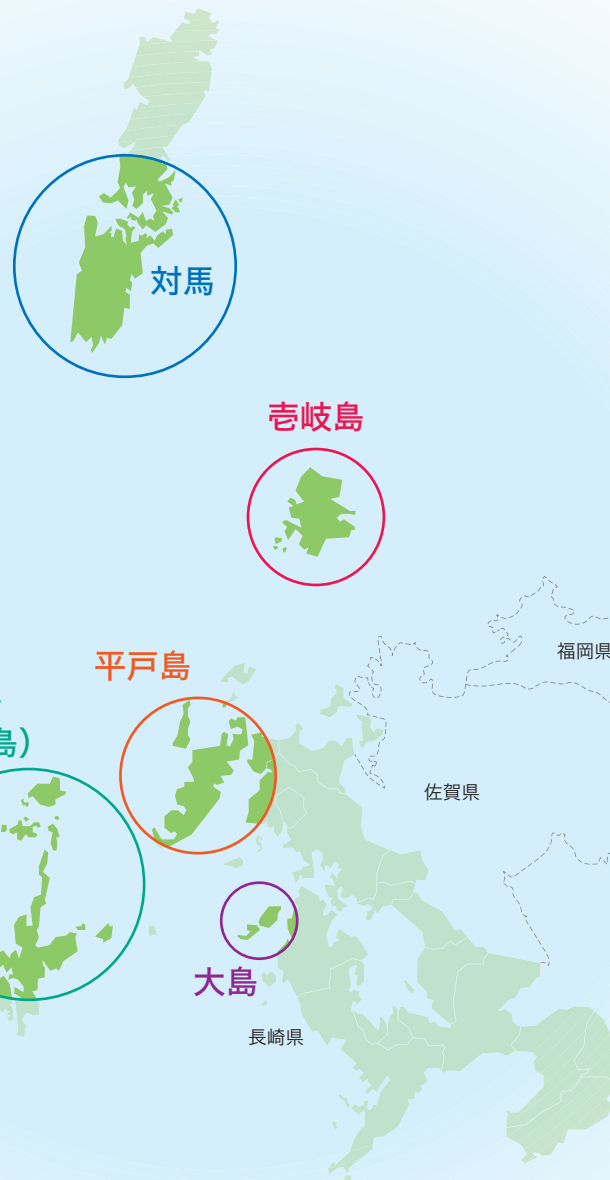
そうごう薬局 いづはら東里店



そうごう薬局 西海大島店



そうごう薬局 ミヤノ店



そうごう薬局 壱岐店



そうごう薬局 郷ノ浦店



そうごう薬局 芦辺店



そうごう薬局 上五島店



そうごう薬局 大洋堂店



そうごう薬局 壱岐店 薬局長 高木 俊太郎

壱岐島には現在11の薬局があり、うち3軒が「そうごう薬局」です。当薬局では隣接する長崎県壱岐病院からの処方箋を主に応需しており、抗がん剤・麻薬を含め、あらゆる種類の調剤に対応しています。健康サポート活動においても市役所の健康増進課や壱岐市薬剤師会、地域の老人会などと連携して、薬局外での健康イベントや測定会、講演などに積極的に参加しています。また自社開発アプリ「タヨリス」による、オンライン服薬指導や待ち時間の案内などは、全国展開しているそうごう薬局ならではの強みです。薬剤師会が主催している薬学生のインターンシップや、地元の中学生の職場体験なども受け入れており、離島での医療に興味を持ってもらうことで、将来にわたって島での医療を継続していくための一助になればと願っています。



そうごう薬局 対馬中央店 小峰 大典

私は入社してすぐに「そうごう薬局 対馬広域センター店」に配属されましたが、薬剤師としてがん治療における専門性を高めたいという想いがあり、がんの処方箋を多く応需している対馬中央店への異動を希望しました。現在は週に1回、連携先である対馬病院での多職種カンファレンスに参加し、がん医療の成功のために連携を強化しています。対馬は薬局数も限られており処方が集中しますので、自分自身の専門性を高めることはもちろん、新人でもあらゆる処方箋に対応できるような体制を作りたいという想いがあり、薬局長とも相談の上、対馬・壱岐ブロックの薬局を対象にZOOMも使用して勉強会を開催しています。今後はBPACC※を取得し、専門医療機関連携薬局の認定を目指しながら、後輩の育成にあたりとともに、他の薬局も対象とした勉強会なども開催したいと考えています。 ※BPACC：外来がん治療専門薬剤師（日本臨床腫瘍薬学会認定資格）



そうごう薬局 上五島店 薬局長 坂下 侑

上五島店では隣接する上五島病院からの処方箋が90%以上を占めています。長崎県では「あじさいネット」と呼ばれる診療情報共有システムが稼働しており、当薬局も情報閲覧施設として参加していますので、患者さんのカルテなども参照することができ、きめ細かい服薬指導が可能となっています。また地域包括支援センターと連携して健康支援イベントなどにも積極的に参加しています。離島医療においては、薬の調達面でこれまで課題がありましたが、近年はドローンによる配達も実験レベルでスタートしており、そういった問題も徐々に解決しつつあります。離島では人と人との繋がりが強く、住民の方々と良好な関係を築いてきています。薬局長として、心身面での健康に気を配りながら、離島医療を継続していきたいと思っています。



そうごう薬局 上五島店 RCS※1 大瀬良 清香

私は佐世保出身で、結婚後上五島に移住してきました。それまで薬局の仕事に関わったことはなかったのですが、総合メディカルは研修がとてもしっかりとしている会社だというイメージがあり、薬局事務として働くことを決めました。10数年前に地域包括センターでの多職種会議に薬局長とともに参加したのですが、当時はまだフローチャートの中に薬局が位置付けられておらず、薬局としてもっとできることがあるのではないかと考えるようになりました。その後、南部九州薬局運営部のRCSタスクチームに参加し、キャラバン・メイトとして認知症サポーター養成講座も積極的に開催しています※2。離島では医療資源も限られるため、相談したいときに相談できる医療職が少ないケースが多くあります。患者さんの不安を解消できるような傾聴を心がける、手帳の確認をしっかりと行い薬剤師へつなぎ、ポリファーマシーの解消に貢献するなど、できることを増やせるよう努めています。現在は地域包括センターや役場の方々も、「そうごう薬局に行けば何とかなる」と言っていており、この島にそうごう薬局があって良かったと思ってもらえるような薬局づくりに尽力していきたいと思っています。



※1 RCS（ラウンドケアスタッフ）：保険請求業務のみならず待合室における患者サービス全般を主として担当するスタッフ
※2 RCSタスクチームの活動については、APO Letter 82号をご参照ください。

ファーマシーフォーラム2023

SOGO力で地域の健康を支える
～地域に寄り添い、頼られ、喜ばれるために～



2023年9月10日、25回目のファーマシーフォーラムが開催されました。今回は福岡会場、東京会場をオンラインで結ぶハイブリッド形式とし、4年ぶりに現地での参加が可能となりました。当日は現地・WEB参加を含め、約600名が参加し、非常に盛り上がったフォーラムとなりました。

ファーマシーフォーラムとは

全国の総合メディカルグループの薬剤師・薬局事務が、日頃の業務工夫や研究の成果を発表する場として、1998年より社内学術大会を年1回開催し、今年で25回目となります。
患者や地域へ貢献できた良い取り組みは社内でも共有するだけでなく、社外の学会などでの発表にも繋がっています。

大会の企画・運営は、毎年全国から選ばれた薬剤師・事務スタッフにより実行委員会を編成して行っています。企画から開催まで約1年間の活動を通して、社内外の関係構築やマネジメントを学び、これからの薬局づくりに貢献できる人材の育成を目的としています。

4年ぶりに現地参加が可能となり
多くの参加者が受付に訪れました



開会式



ポスター発表



主なプログラム

- 特別講演 「高齢社会における多職種連携・薬局薬剤師の役割」
医療法人社団悠翔会 理事長・診療部長 佐々木 淳 先生
- 一般演題発表 薬剤師演題(口頭・ポスター) 43演題
薬局事務演題(口頭・ポスター) 8演題
- 専門医療機関連携薬局 紹介動画の上映
- 社内認定専門薬剤師シンポジウム など

開会の挨拶

ファーマシーフォーラムは、今年で25回目を迎えます。各薬局の優れた取り組みを共有し、それらを実践することにより、患者さん・地域にとって、より質の高いサービスを提供する薬局づくりに繋がっているものと確信しています。
現在の医療・介護を維持するためには、生産年齢人口の減少や、地域と都市部の医療・介護の格差、医療・介護費の財政への影響など、喫緊に迫った様々な社会的課題の解決が必須です。
このような環境において当社の強みは、地域の医療機関との連携によって築き上げた患者さんとの信頼関係と、現在積極的に取り組んでいるデジタル基盤の構築等により、総合力でお客さまの期待に応えようとする事です。

今年の開催テーマは「SOGO力(そうごうりょく)で 地域の健康を支える～地域に寄り添い、頼られ、喜ばれるために～」です。社員の皆さん一人ひとりがパフォーマンスを向上させ、当社の強みを活かし、それぞれの力を結集し、SOGO力(総合力)で、「未来の社会・医療を支えるヘルスケア業界のフロンティアカンパニー」となって、社会的使命である「よい医療を支え、よりよい社会づくりに貢献する」を実現していきましょう。



総合メディカル株式会社
代表取締役社長
坂本 賢治

特別講演

高齢社会における 多職種連携・薬局薬剤師の役割

日本では約7割の方が「できれば最期は自宅で過ごしたい」と答えているにも関わらず、実際に自宅で最期まで過ごせる方は2割程度に留まっている。その理由として、後期高齢者の増加に加え、高齢者の単独世帯が全体の3割を占めると推測される現在の日本において、これまでの医療体制ではそうした社会背景に十分に対応できていないことが考えられる。

在宅医療は多職種の連携を通じて継続的・計画的・包括的な健康管理を行うことで高齢者の急変を防ぐとともに、QOLを改善し、最後には自宅での看取りを可能とする有効な手段であり、その中で薬局薬剤師の果たす役割は非常に大きいと考えられる。ポリファーマシーの解消や未病の方に対する健康増進支援などはもちろんのこと、がん患者さんに対して、副作用の管理にはじまり患者さんの意思決定支援やその後の疼痛緩和において、薬局薬剤師がかかりつけとして介入することで、患者さんが本当に望む治療や看取りを実現させることが期待できる。
今回の講演では、在宅医療における悠翔会の取り組みを紹介しながら、超高齢社会における多職種連携と、その中での薬局薬剤師の役割について考えてみたい。



医療法人社団悠翔会
理事長・診療部長
佐々木 淳 先生

■ 一般演題発表(一部抜粋)

薬局機能向上部門 最優秀賞

嚥下機能低下患者への医薬連携への取り組み

そうこう薬局 安来店(島根県) 佃 主税

発表
概要

山間部で歯科の定期受診がしづらい地域において、高齢者の歯科受診状況や嚥下機能を確認することにより、口腔内の症状・薬剤選択における問題に気づき医師と情報を共有する取り組みについて報告した。



RCS部門 最優秀賞

薬局事務による地域の介護・医療と来局患者を繋ぐ「むすぶタスク」の取り組み

そうこう薬局 早岐店(長崎県) 力武 佐智世

発表
概要

薬局事務を中心として、地域の介護・医療・福祉に関する施設を訪問して、薬局の役割機能についてチラシを持参して紹介。薬局と地域の方々との顔の見える関係性作りを行った結果、健康イベント等を共同で開催したり、来局者に適切な介護・福祉サービスを紹介するなどの貢献に繋がった。



ポスター部門 優秀賞

うつ病患者に対する薬剤師のスティグマおよび理解度の現状と課題の検討

みよの台薬局 タオ薬局 松原 つぐみ

発表
概要

うつ病患者さんへの対応において、薬剤師側にスティグマや理解度の問題により、服薬指導における改善すべき課題があるのではないかという仮説のもと、近隣の薬剤師にアンケートを実施。86名の回答より、うつ病患者へのブロックングを改善するためにも、うつ病に対する理解を深めることの必要性を考察した。



■ 社内認定専門薬剤師シンポジウム

これからの薬剤師の職能発揮について

～専門薬剤師とライン長の対談を通してSOGO力について考える～

当社では社内認定の専門薬剤師制度を設けていますが、地域偏在の影響などもあり「専門薬剤師はどのような活躍をするのか」や「地域で専門性の深化を担う薬剤師を育てるためにはどうすればいいか」などの悩みを抱える薬剤師や薬局長、ブロック長も少なくありません。その悩みを解決する一助として、現場・社内・社外で専門性を発揮する専門薬剤師や薬局長、それを支える運営部長をお招きし、当社の専門薬剤師のあるべき姿について議論しました。

演者

そうこう薬局 五香店(千葉県)	専門薬剤師 塚越 香里
そうこう薬局 銀座通店(徳島県)	専門薬剤師 吉村 朋展
そうこう薬局 久留米医大前店(福岡県)	薬局長、外来がん治療専門薬剤師 牧原 直
南関東薬局運営部	運営部長 長澤 陽
北部九州薬局運営部	運営部長 石原 孝

社内認定専門薬剤師シンポジウム



※所属は2023年9月時点のものです

当社のファーマシーフォーラムは、毎年全国から選ばれた薬剤師・事務スタッフにて実行委員会を編成し、企画・運営を行っています。企画から開催まで約1年間の活動を通して、社内外の関係構築やマネジメントを学び、スキルアップ・キャリアアップの機会としています。

■ 運営部長コメント

今年は新型コロナが第5類となり、4年ぶりに福岡と東京の2会場に聴講者を招き入れ、リアルとWEBのハイブリッド開催という新たな形式での開催となりました。全国の各運営部、グループ会社から集まりファーマシーフォーラム2023を無事成し遂げた実行委員、そして支援いただいた、運営部、グループ会社、学術情報部の皆さんに心より感謝申し上げます。当日は日々の薬局現場の皆さんの多くの素晴らしい研究・取り組みの発表がありました。皆さんが共感した、気づき得たものを地域でアウトプットしていくことが大切です。今回得たことを各地域の現場で実現し、地域の健康を支え続けてまいります。



東京薬局運営部長
菊池 大介

■ 実行委員長コメント

ファーマシーフォーラム2023は4年ぶりに現地聴講とオンライン聴講のハイブリッド形式での開催となりました。開催の1年前から、テーマの決定・特別講演の先生への依頼・会場や配信の準備など、沢山の準備を重ねました。不安や困難も多くありましたが、関係するすべての方々に支えられ、無事に終えることができました。健康を願うすべての方々を支えるため、わたしたちが目指すものを考え行動を起こすきっかけになる多くの研究発表がありました。これからも地域のための価値ある薬局を創り、地域に頼られ喜ばれるために、次のファーマシーフォーラムの開催に繋げてまいります。



茨城ブロック ブロック長
井本 圭亮



テーマに込めた思い

総合メディカルのあるべき姿・未来を想像したときに、地域の皆さんの「笑顔」「健康」「明るい生活」を一番近くで寄り添い支えている絵が浮かびました。地域の皆さまの最も身近な存在になり、常に地域の皆さんの「笑顔」「健康」「明るい生活」のためにできることは何か考え、発信・追及していきたい。ファーマシーフォーラム2023がそのための大きな「力」になるようにしたいという思いでこのテーマにしました。

優秀演題の表彰式



実行委員(東京会場)



実行委員(福岡会場)



第56回 日本薬剤師会学術大会
和の心 ～未来へ～

開催日：2023年9月17日(日)～18日(月・祝)

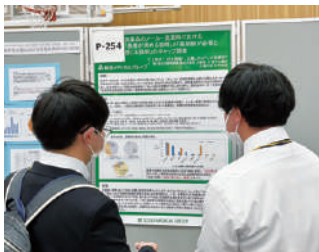
第56回日本薬剤師会学術大会における、総合メディカルからの発表演題の一覧をご紹介します。

演題名		演者
1	訪問看護師と連携してDESIGN-Rを用いた術後創部の経過を評価し、処方提案によって創部が改善した一例	そうごう薬局 阿波池田調剤センター店 吉村 朋展
2	ステロイド外用薬に関する指導内容の均てん化を目的とした指導ツールの運用	そうごう薬局 宝殿駅前店 花井 拓也
3	来局患者における入院時情報提供に係る手順書の有用性の評価	そうごう薬局 中津町店 和田 憲幸
4	薬剤師が管理栄養士と連携して、制限の多い透析患者の嗜好に沿った食品を提案しサポートできた1事例	みよの台薬局(株) ひまわり調剤薬局 海野 諒子
5	保険薬局のトレーシングレポートによる処方提案と提案採用後の経過解析	そうごう薬局 荒戸店 安田 賢二
6	かかりつけ患者満足度向上のための、かかりつけ薬剤師の詳細な勤務予定を記載した勤務表の配布について	そうごう薬局 細野店 茂村 玲奈
7	逆流性食道炎に対するプロトンポンプ阻害薬の漫然投与防止を目指した取り組み	そうごう薬局 新田原調剤センター店 北奥 彩
8	医薬品メーカー変更時における、「患者が求める説明」と「薬剤師が必要と感じる説明」のギャップ調査	(株)あおば調剤薬局 大曲店 三上 裕也

発表者のコメント

株式会社あおば調剤薬局 大曲店 三上 裕也

学術大会に参加し、自分では気づかなかった視点や考えで取り組んでいる方の発表を聴講したり、普段接する機会のない大学の先生方と交流することで、自分の知見・視野が大きく広がったように感じます。



第77回 日本臨床眼科学会

IMAGINE THE FUTURE ～想像の向こうへ～

開催日：2023年10月6日(金)～9日(月・祝)

第77回日本臨床眼科学会の共催セミナーにおける、亀崎店 重松博美さんの講演概要をご紹介します。

講演概要

「薬局薬剤師による点眼手技調査」(共催セミナー)

2021年に来局患者に行った点眼手技アンケート調査の結果(第16回日本薬局学会学術総会発表)と、患者さんが普段行っている点眼薬の不適切な使用方法や管理方法の実際を紹介し、アドヒアランス向上のための考察や医師と薬剤師の連携の重要性について講演した。

発表者のコメント

そうごう薬局 亀崎店 重松 博美

薬局での取り組みに医師の皆様から多くの質問をいただきました。今回の経験から、薬剤師の発信力を高めていくことは大切であり、他職種の学会にも積極的にチャレンジしていくことが必要であると実感しました。



総合メディカルの人財育成

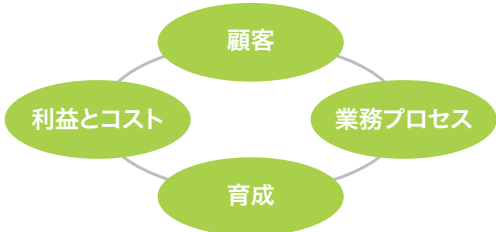
総合メディカルでは、マネージャーを目指すための研修や、薬剤師としての専門性向上を目指すための研修などを多数実施しています。本コーナーでは人財育成部白濱シニアマネージャーより、研修でお伝えしている内容の一部を連載でご紹介してまいります。

マネージャーに必要なキーワード
「マネジメントとコンピテンシー」

「マネジメント」とは

薬局長やブロック長といったマネージャーの役割は「人や組織を動かし、組織にしかできない大きな成果をもたらすこと」です。薬局を運営し、地域にサービスを提供し続けるために、マネージャーは「顧客」「業務プロセス」「育成」「利益とコスト」の視点を育むことが求められます。

組織目標・ビジョンの浸透と達成



薬局長を目指す方のための研修(マネジメント研修ファースト)について

■ 研修概要

本研修では、薬局長として理想の薬局をつくるために必要となるマインド・知識・スキルを約3か月にわたって学びます。

eラーニングや講義のほか、グループ討議を通じて受講者同士で学びあう場を提供しています。

■ 研修内容 「コンピテンシー」の開発について

仕事の成果を生み出すうえで知識・スキルは重要ですが、更にそれらを「効果的に活用する能力」が必要です。この能力を「コンピテンシー(能力要件)」といいます。例として、情報を整理して課題を明らかにする「分析力」やメンバーに関わる際に必要な「対人対応力」、「育成力」などがあります。コンピテンシーは自己分析や所属長によるフィードバック、現場実践課題、研修担当からのフィードバックを通じて、中長期的に能力開発を行います。

専門性向上に必要なキーワード
「ケアステップと信頼関係の構築」

「ケアステップ」とは

薬学的管理において、薬剤師は患者さん個々の問題を把握し、解決に導くことが日々求められています。総合メディカルグループでは、患者ケアを効率的・効果的に行うため、望ましい手順や必要なスキルを“ケアステップ”としてまとめ、標準化しています。

問題の把握 → 問題の解決 → 定着の支援



コミュニケーション研修について

■ 研修概要

講義やeラーニングでコミュニケーションの基礎知識を習得した後、模擬患者との対応演習を実施しています。自身の対応を動画で客観的に振り返るとともに、相互フィードバックにより、ケアステップの理解を深め、実際のケアに活かすポイントを学びます。

■ 研修内容 「プライマリーニーズを満たす」について

患者さんに私達のケアを受け入れて頂くには、その環境を整えることも重要です。「プライマリーニーズ」とは、来局する患者さんが元々持っているニーズを指します。“今日はサプリメントを紹介して欲しい”“飲み合わせを聞きたい”などのニーズを聴取し、満たすことで患者さんの満足度が向上し、信頼関係を築く第一歩となります。また、プライマリーニーズの問いかけが、普段の問題発見の糸口になることもあります。

vol.86

2024年1月発行 発行／総合メディカル株式会社
〒810-0041 福岡県福岡市中央区大名 2-9-23
薬局事業本部 TEL：092-713-7061

